



〒 242-0007 大和中央林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiwase@edventure.jp URL <http://edventure.jp/>

ウクライナ問題を考える

ロシアのウクライナ侵攻は依然続いていて、終わる気配がありません。一時の衝撃も時間が経つにつれ少し弱くなり、日本での受け止め方も、徐々に「遠いところの出来事」に変容し始めているようにも感じられます。しかし、今でも多くの命が奪われていることには変わりありません。

前号の Ed.ベンだよりで、ウクライナでの戦争に関してこの紙上での意見交換を呼びかけたところ、Tさんより長文のご意見を頂戴しました。すべてを紹介することはできないのですが、Tさんのご意見をもとに、この問題を考えるための視点を整理してみたいと思います。

(以下、黄色色の四角で囲んだ部分はTさんのご意見です。)

視点 その1 冷戦後の世界体制の揺り戻しと、歴史を無視して繰り返される残虐行為

何よりも今回の衝撃の根っこにあるのが、堂々と国境を侵して大国が隣国に攻め込んだという事実です。第二次世界大戦後、国際連合のもとに世界の紛争や戦争を抑止することとなりました。こうした体制を75年以上守ってきたはずなのに、しかも常任理事国であるロシアが侵略の兵を進めたことは、戦後の国際体制の崩壊を意味することでもあります。

誰もがこの21世紀の現在に、まさに20世紀の帝国主義侵略が行われるなんて想像もできないことです。早くからアメリカのバイデンやCIAがロシアのウクライナ侵攻を叫んでいましたが（そもそもそれが怪しい）まさかかつてのような侵略戦争を起こすなんてあり得ない、人間も少しは歴史から学んだらうから、現実には起こらないだろうと思っていたのは私だけではないでしょう。

しかし都市が破壊され、住宅や学校、住民が避難している建物にロケット弾、クラスター弾の砲撃に晒され、子どもや多くの人達が犠牲になっているのはやりきれない思いです。また占領した町の住民を無差別に虐殺したことが報じられましたが、戦前では日本軍が朝鮮半島や中国大陸で、ベトナム戦争ではアメリカ軍が、パレスチナではイスラエルによって村が消されたりと、必ずこうしたことが起こっています。だから戦争は絶対にダメなんです。

1991年のソビエト連邦崩壊をもって、第二次世界大戦後に繰り返された冷戦は終わりを告げたとされています。その後は社会主義国も自由主義経済圏の中に組み込まれ発展を続けてきました。特に、グローバル経済が進む中では、各国が経済活動に関して複雑に絡み合い、世界が一つになって経済活動が進んでいることから、経済活動そのものが安全保障につながっているとも考えられてきました。

しかしどうでしょう。今回のプーチン氏の行動の背景には、冷戦時代のソビエト連邦そのものの国家意識や中心主義が見え隠れしています。その結果、世界経済も大混乱に見舞われています。アフリカの国々では、食糧危機が叫ばれ始めました。小麦の不足や物流費の高騰が原因です。

プーチン氏の今回の行動に見られる意識は、まるで歴史を逆行ししているようでもあります。でも、このような傾向は世界のあちらこちらでも見られるようになりました。中国の習近平氏も古典的な「中華思想」にも似た発想を持っていると言われていましたし、ヨーロッパでも極右政党が票を伸ばしています。アメリカでも、トランプ前大統領は強権的な脅しの手法で、独裁的な色彩を濃く残しました。

振り返って日本はどうでしょう。「敵基地攻撃能力」を出すまでもなく、憲法9条はとっくに骨抜きにされ、武力による世界の中での日本の位置取りがおおっぴらに論議され始めました。

歴史は忘れ去られているのです。

視点 その2 国内での分断と対立

ウクライナは私どもサッカーファンにはシェフチェンコの国ぐらいしか知りませんでした。中々複雑で東部はロシア人が多く、西部はウクライナ人で、当然東はロシア寄り、西はEUやNATO寄りだと別れて内戦状態です。ロシア寄りの政権、EU寄りの政権が代わる代わる登場し不安定な状態が続いていました。ドイツのメルケル首相フランスのオランド大統領の仲介でミンスク合意ができ安定を取り戻しました。

そうした中ゼレンスキー大統領はEU,NATO寄りの政策で西部の票を集めて当選し、かなり強引に進めてきたようで、国家反逆罪のもとロシア派の粛清を大々的に行ったようです。だからプーチンが怒るのも無理はないというつもりはありません。大体ソ連が崩壊したとき、もう東西、右左という枠組みは消えたと思っていたのはあまりにもおめでたいことだった。そしてワルシャワ条約機構は解体したのに、なぜかNATOは残り加盟国を増やしていったのです。結局東西の争いは現在も続いているわけで、ウクライナはその代理戦争を戦っているのではないかと。

この視点は、日本に生活する私たちにとってはなかなか理解できない、それぞれの国の内部の対立なのでしょう。国内での民族的な対立を抱えている国は多く見られます。中には内戦状態になっているところもあります。では、日本にはないのかというと、そうではありません。日本国内でも韓国・朝鮮や東南アジアの人々への差別的な感情は、それこそ以前よりも高まってきているのではないかと思います。どうしてでしょう。皆さんはどう思いますか？

視点 その3 戦争に『加害者・被害者』はない！ どちらも殺戮される側であり、殺戮する側である

マスコミの報道で不思議に思うのは、ウクライナ軍が戦っている映像がないことです。世界中が味方をしているのだからあってもいいと思うのですが、ゼレンスキーはアメリカから 25億ドルの軍事援助を受けているし、武器援助も相当あるはずですが。それが分かるのはまずいかな。NHKをはじめマスコミの報道を全面的に信用できないのは学生の頃からの習性ですが、やはり真実は知りたいと思います。

様々な経済封鎖が行われ、私たちの暮らしもコロナ禍に追い打ちをかけるように窮屈になってきています。もっと不自由になっているのは、勿論ウクライナの人々ですがロシアの人々も同じです。

ウクライナに突如侵攻したロシアは非難されるべきであり、責任をとるべきです。特に、市民への攻撃や殺戮などは、許しがたい行為です。しかしだからといって、ウクライナが善でロシアが悪という単純な構図だけで戦争を捉えることは危険です。「ウクライナがんばれ！」こそ、実は戦争のむごさを人ごととしているからです。戦争の場面にあるのは、単なる殺戮行為そのものであり、そこには善も悪もありません。それが、「戦争のリアル」です。

視点 その4 声高に叫ばれる『安全保障』は本当に『平和』につながる道なのか？

私の友人がメールで「こんな時代だからこそ9条を胸に平和のために行動する」と言っていました。わたしも全く同じです。

台湾と韓国には米軍との合同司令部があり、勿論米軍が指揮を執るのですが、日本にはありません。何故なら憲法9条があるから設置できないのです。今、私たち一人ひとりにできることは、この平和憲法を守りぬくことです。そのことがウクライナの平和にも通じることだと信じています。

ロシアのウクライナ侵攻によって、声高に安全保障と防衛費の予算増額などが叫ばれ始めています。そして、明日にでもロシアや北朝鮮や中国が攻めてきそうな物言いが目につくようになりました。待ってましたとばかりに、核兵器を米国と共同保有しようなどの案まで飛び出したのには、あまりの無節操さに驚きました。

こうした政治的な動きに対し、私たちは何を思い、どう行動するべきなのでしょう。日本の平和をどう考えますか？

視点 その5 教育現場では何を子どもたちに伝えるべきか

この視点でのご意見はありませんでした。でも、Ed.ベンチャーが教育支援の団体である以上、このことを避けては通れません。皆さんのご意見を是非お寄せください。

ご意見の宛先 事務局メールアドレス toiawase@edventure.jp

これからのEd.ベンチャーの学習会

理論学習会	6月29日(水)19-21時	教室の親和性と競争原理が意味するもの
授業研究会	7月25日(月)20-22時	ジェンダーについてのカリキュラムづくり
	8月15日(月)20-22時	女性の働き方についての学習会
外国人の子ども理解のための学習会	8月5日(金)14時-16時半	外国人が抱える家族の葛藤
インクルーシブな社会を目指す学習会	7月6日(水)19-21時	インクルーシブな授業の提案①中学校

【理事のつぶやき】 休み時間の校庭で空を見上げぼつりと「日本にも爆弾の飛行機来る？」と言った子に「日本は戦争しないって憲法で決めているから、それはないと思うよ。」と答えると「良かった。」と一言だけ返ってきた。日々、ニュースに流れる受け止めきれないような現実の映像を目にしなが、子どもたちは小さな胸に何を感じているのだろうか。ロシアとウクライナの国のこと、戦争とは何か、平和を願って声を上げている人達がいること、何人かの先生達と教材を持ち寄り子どもたちと話をした。話すことで、聞くことで分かること、感じることもある。あれから3カ月たった今も終わりの見えない状況が続いている。学習や業務に追われる毎日の中で少し立ち止まり、大切なことは何か、大切にしたいことは何か、子どもたちの声に耳を傾けみんなと考えていきたい。(YB)